

## 令和2年度-指導の重点事項の評価総括——令和3年度への課題

今年度の「指導の重点事項」について、各種アンケート（生徒、保護者、教師）の回答を4段階で評価し、「4、とてもそう思う」「3、ある程度そう思う」の肯定的評価を総括し各分野毎の総合評価とした。達成状況は下記のとおりとする。

|             |                                                      |
|-------------|------------------------------------------------------|
| <b>総合評価</b> | <b>A 十分達成（達成率90～100）、B 概ね達成（80～90未満）、C 要改善（80未満）</b> |
|-------------|------------------------------------------------------|

|                                                      |                   |
|------------------------------------------------------|-------------------|
| <b>（１）確かな学力の育成・・・★学習意欲の向上を図る<br/>★持続可能な社会の創り手の育成</b> | <b>総合評価 B（84）</b> |
|------------------------------------------------------|-------------------|

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等をさらに伸ばしていくためには「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を引き続き推進する必要がある。さらに、学びの質を高めるためには、学びに向かう力・人間性等の非認知能力を育成し、自らの学びの下支えにし、認知能力の発達を促すことが重要である。教育課程全体で目的意識を育み、生徒自身が学び・育ちを実感できるようにしたい。キャリアパスポートとの関連を含めた学びの記録（金中ノートの見直し）を活用し、生徒の学びの自立を図る。

|                                            |                   |
|--------------------------------------------|-------------------|
| <b>（２）健やかな体の育成・・・★体力向上と健康・安全な中学校生活を送る。</b> | <b>総合評価 A（91）</b> |
|--------------------------------------------|-------------------|

生徒アンケートからは学校行事や部活動等に意欲的に取り組んでいる様子が窺える。保護者アンケートでは7月調査で4項目中3項目が80％を下回る結果となった。12月調査では全ての項目で80％以上の結果となり改善が図られた。今後も生徒の体力向上への関心（一校一運動の推進）を高めながら「部活動ガイドライン」に則して適正化を図り、生徒及び教職員の健康維持に努める必要がある。

|                                               |                   |
|-----------------------------------------------|-------------------|
| <b>（３）豊かな心の育成・・・★人と人との関わりを重視し、社会性の基盤をつくる。</b> | <b>総合評価 B（86）</b> |
|-----------------------------------------------|-------------------|

生徒一人一人を大切にするために「さん付け」で呼名するという調査項目については、教師及び保護者、生徒アンケートのすべてで依然80％を下回る結果である。人権意識の確立の観点から、今後も引き続き指導を継続したい。昨年度コロナウイルスの影響で計画していた諸行事を中止したが、非認知能力の育成の観点から行事の捉え直しを図り取り組みたい。

|                                          |                   |
|------------------------------------------|-------------------|
| <b>（４）学校経営・・・さまざまな課題に対応した取り組みの充実を図る。</b> | <b>総合評価 B（87）</b> |
|------------------------------------------|-------------------|

学校からの各種情報が入らないと言う声が保護者からある。HPや各種通信文書の発信の在り方を再考する必要とともに、保護者が学校に来る機会を増やしたい。PTA活動の活性化を含め保護者と学校の連携の在り方について検討する。

|                                               |                   |
|-----------------------------------------------|-------------------|
| <b>（５）生徒指導の充実・・・★いじめをなくし、不登校など出席状況の改善を図る。</b> | <b>総合評価 B（89）</b> |
|-----------------------------------------------|-------------------|

学校全体が落ち着いた雰囲気では保たれている。定期的な共通確認や「生徒指導新聞」などで情報を共有したことが功を奏したと考える。いじめや不登校については、早いうちにその兆候に気づき対応していくことが改善につながる。引き続き、関係支援員やSC、関係機関と連携してその改善を進める必要がある。

生徒の自己肯定感を高めるために、確かな生徒理解と非認知能力の育成の視点を持った指導の在り方を検討し、支持的な風土づくりの必要があると考える。

## 令和3年度 指導の重点事項

### 1 新学習指導要領への対応・・・★改訂のポイント内容を理解する。

#### (1) 新学習指導要領への対応

- ①新学習指導要領実施年として、校内研修や各教科会、各種研修会などを通して、特に学習状況観点の見とりと評価の在り方等について理解を深め、改訂を進める。
  - \*学習評価の4観点から、学力の3要素への確認
- ②「主体的・対話的で深い学び」について理解を深めると共に、本校の良さの向上と課題の改善に向けた取組を充実させ、教科等横断的な学習の充実を図る。
  - \*3学年総合的な学習の時間（案：地域を調べる知る）
  - \*「県学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ」〈視点3：組織的な関わり〉

### 2 確かな学力の育成・・・★学習意欲の向上を図る。★持続可能な社会の創り手の育成

#### (1) テスト結果から

- ①県学力定着度調査（学びのたしかめ／6・11月実施）は、+3p以上ある。

#### (2) 「県学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ」（沖縄県教育委員会）の推進

- ①学力向上年間サイクルにおける県学力定着度調査（学びのたしかめ）2月到達度調査、6・11月定着状況調査などを活用した学力調査や「県学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ」に係る取り組みの充実
  - \*学びの質を高める授業改善・学校改善のために3つの視点と5つの方策にもとづくカリキュラム・マネジメント
  - 3つの視点「自己肯定感の高まり」「学び・育ちの実感」「組織的な関わり」と
  - 5つの方策「日常化する」「そろえる」「支える」「見通す」「つなぐ」
- ②学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ることを、学校組織としてその改善に取り組む。
  - \*指導と評価の一体化
- ③補習指導（放課後、補習 Week、長期休業中など）と別室指導（不登校生徒等）の充実を図り、支援を要する生徒への手だてを考えた学力の向上に努める。
- ④全職員年一回以上の公開授業を行う。
- ⑤指導主事を招聘し、授業研究会の充実を図る。

#### (3) 校内研修の充実と授業改善

- ①令和2年度校内研究テーマ「主体的な学びを促す授業の工夫」  
サブテーマ～考えを深め合う交流場面の工夫を通して～

#### (4) 小中一貫教育の充実と発展

- ①小中一貫教育について全職員で共通理解を図り、小中の学校間の円滑な接続をおこなう。
  - \*合同研修会の充実と共通実践事項の徹底
  - \*小学校から学び、中学校から生徒の育ちを発信する。

### 3 健やかな体の育成・・・★体力向上と健康・安全な中学校生活を送る。

#### (1) 行事、部活、体力テストから

- ①様々な学校行事や部活動等を通じて、自己や集団の目標を明確にし体力の向上を図る。
- ②「一校一運動」の検討と推進

#### (2) 部活動の見直し、日常的な運動

- ①部活動についての、望ましいあり方や方針を全職員で共通理解し、活動時間や休養日の設定などその適正化に努める。特に、平日1回と土日1回の休みを設定する。

＊毎月の部活動計画の校長提出

- ②給食や食育指導を通した望ましい食習慣を考えるとともに日常的な運動習慣の充実を図るため、教科指導や学年指導・学級指導の充実を図り、健康的な生活習慣の確立を図る。

#### 4 豊かな心の育成・・・★人と人との関わりを重視し、社会性の基盤をつくる。

##### (1) 豊かな心の育成

- ①「道徳科」の研究を深め、「考え、議論する」道徳の授業へ充実を図るため、全職員による道徳の授業実践に努める。

- ②生徒の自己目標の達成状況を評価するとともに、「他人の役にたった、他人に喜んでもらった」など他者からの評価を大切にし、自己有用感の更なる向上に努める。

＊「県学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ」〈視点1：自己肯定感の高まり〉

- ③豊かな体験活動を通して自他の関わりを意識させるとともに、挑戦や他者との協働の重要性を実感させる。社会に貢献するボランティアの精神を養い、実践することができる生徒を育成する。

＊「県学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ」〈視点2：学び・育ちの実感〉

##### (2) さんづけ呼名とあいさつ指導の率先垂範

- ①場に応じたあいさつができ、礼儀正しい言葉遣いや行動ができる生徒を育成する。

- ②教師自ら率先し、あいさつをおこなう。

#### 5 生徒指導の充実・・・★いじめをなくし、不登校など出席状況の改善を図る。

##### (1) いじめの未然防止、早期解決

- ①未然防止のための「いじめなくそう友の会」（生徒会生活委員会）の充実

- ②いじめを見逃さない、早期発見のための校内研修の充実と職員の指導体制の確立を図り、生徒指導方針の共通理解および共通実践に努める。

- ③保護者へのいじめ早期発見のためのパンフレット作成・配布

##### (2) 新たな不登校を生まない支援、不登校の早期登校復帰のための支援

- ①入学前の小中連携による情報共有、学級編制、入学時・入学後の登校支援の充実

- ②担任その他の教員による教育相談体制の充実、SCや各支援員による相談活動を充実させるとともに、他機関と連携しながら不登校の改善に努める。

- ③生徒の自主的な活動の充実を図るために生徒会との連携を図り、自分のよさや可能性（自己肯定感の高まり）が実感できる教育実践をめざす。

＊「県学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ」〈視点1：自己肯定感の高まり〉

- ④「自分に自信がある」（自身の能力の向上）と「よりよい人間関係を形成できる」（他との協調）を両軸に、有意義で充実した学校生活が送れる学習環境の整備を図り、将来の夢を語る生徒の育成に努める。

＊「県学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ」

「総括目標」生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む ⇨ 小中一貫教育のテーマとの関連

「長期目標」持続可能な社会の創り手となる生徒の育成